

衣笠山に露出する地層と岩石：二つの時期の火山活動

発表者：鳥取大学農学部3年生 澤村奈々子さん、柳沢真悠花さん

【質問】 地質の勉強はどこが面白いですか？調査で何を感じましたか？

【回答】・(地質の勉強はどこが面白いか) 一見無関係な点と点が繋がる瞬間が面白い。現地で調査したことを持ち帰り、考察する時間が好き。

・(調査で何を感じたか) 地質調査の難しさを感じた。同じ種類の岩石でも場所が違えば異なる外見をしている。

【質問】 研究をして楽しかったこと、苦労したことは何ですか？

【回答】 楽しかったことは偏光顕微鏡での観察、考察です。苦労したことは山を歩くこと、薄片を作ることです。

【質問】 インターサータル組織って何ですか？

【回答】 針状、短冊状の斜長石の隙間を輝石、不透明鉱物、火山ガラスが埋めている組織。

【質問】 調査地点はどのように決めたのですか？

【回答】 菅森先生からの提案に基づき決定。

(菅森補足) ①衣笠山の頂上からの景観がぼちぼち良い、②山頂に至るルートに初学者でも理解しやすい露頭が露出している(過去の卒論生の研究成果も利用できる)、③車通りが少ない、④研究室で実施している火山巡検を活かせる、⑤山陰海岸ジオパークの内陸部にジオパークの活動を広げたい、という観点から学生の地質調査の訓練として、衣笠山へ至る登山道を今回選びました。学生の訓練の場ではありましたが、従来の調査で予想された結果を支持するデータや今まで疑問に思っていたことを解決するデータを得ることができるとともに新たな疑問も生まれました。